

平成26年9月29日

小金井市長  
稲葉孝彦様

中間支援組織設立検討について、別紙の内容をもって提言とする。

小金井市中間支援組織設立検討委員会  
委員長 林大樹

## 小金井市中間支援組織検討委員会委員名簿

委員長 林 大樹

副委員長 清水 勉

委員 内田 雄二

木下 美智子

斉藤 浩

高橋 金一

長島 剛

川合 修（平成26年3月31日まで）

藤本 裕（平成26年4月1日から）

益田 智史

森田 眞希

特別委員 今井 啓一郎

大森 康雄

小金井市中間支援組織検討委員会検討経過

○委員会

第1回	日時	平成26年1月27日(月) 午後3時30分～午後5時30分
	会場	小金井市市民会館 萌え木ホール A会議室
第2回	日時	平成26年2月19日(水) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所第二庁舎8階 802会議室
第3回	日時	平成26年3月27日(木) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所第二庁舎8階 801会議室
第4回	日時	平成26年4月21日(月) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所第二庁舎8階 802会議室
第5回	日時	平成26年5月19日(月) 午後2時～午後4時
	会場	前原暫定集会施設1階 A会議室
第6回	日時	平成26年6月23日(月) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市市民会館 萌え木ホール A会議室
第7回	日時	平成26年7月14日(月) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市商工会館2階 大会議室
第8回	日時	平成26年7月30日(水) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市商工会館2階 大会議室
第9回	日時	平成26年8月11日(月) 午後3時～午後5時
	会場	小金井市市民会館 萌え木ホール A会議室
第10回	日時	平成26年8月26日(火) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市商工会館2階 大会議室

○作業グループ

第1回	日時	平成26年2月6日(木) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市産業振興プラン推進室「黄金井の里」
第2回	日時	平成26年3月10日(月) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市産業振興プラン推進室「黄金井の里」
第3回	日時	平成26年4月8日(火) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所第二庁舎6階 601会議室
第4回	日時	平成26年5月9日(金) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所 本町暫定庁舎2階 本町暫定第3会議室
第5回	日時	平成26年6月9日(月) 午後2時～午後4時
	会場	小金井市役所 本町暫定庁舎2階 本町暫定第3会議室
第6回	日時	平成26年7月2日(水) 午後3時～午後5時
	会場	小金井市役所 本町暫定庁舎2階 本町暫定第3会議室

○オープン会議

第1回	日時	平成26年3月18日(火) 午後7時～午後9時
	会場	小金井アートスポット シャトー2Fカフェ
第2回	日時	平成26年6月6日(金) 午後7時～午後9時
	会場	小金井アートスポット シャトー2Fカフェ



# 中間支援組織設立検討に関する

## 提 言 書

平成26年9月

小金井市中間支援組織設立検討委員会



## はじめに

今日、社会経済情勢は大きく変化し続けている。国内では、景気は緩やかに持ち直しつつあるものの、雇用の悪化や財政赤字の拡大が懸念されるほか、デフレの状況が続くなど、依然として厳しい経済状況が続いている。また、本格的な人口減少社会の到来により、少子・高齢化が進むことが見込まれるなか、生活や産業などあらゆる面において大きな影響が生じると予想され、先行きが不透明なものとなっている。

小金井市においても例外ではなく、小売業の事業所数と販売額をはじめ、市内工業の事業所数、従業員数、出荷額、農地面積、農家数、農家人口の減少傾向が続くとともに、商工業者や農業者の後継者不足が進んでいる。

小金井を取り巻くこうした状況にあって、これまで通りの産業振興の取り組みだけでは、さらなる成果の拡充は困難であると思われる。今後は、市の人的・財政的に厳しい現状もふまえながら、限られた資源や資金を有効に活用し、地域経済の活性化を進めていくことが求められている。

小金井は人のつながりによる取り組みが多数行われていることから、“人のポテンシャル”が非常に高い都市である。市内の有志が集まり継続的なイベントが開催されており、やる気のある若手の参画や自主的な活動が取り組まれている。

こうした“人のポテンシャル”を最大限に発揮してもらうため、日頃からのつながりをつくることにより、既存の組織の枠に収まらない人も含めた“オール小金井”での様々な市民のニーズに対応した取り組みの実現を図ることが期待されている。

これまでの既存の取り組みだけでは対応しきれない状況が続くなか、「多様で豊かな市民力」を活用していくことが求められている。

以上のことから、小金井の産業振興をさらに推進するためには、多様なバックグラウンドを持つ意欲ある市民の力を活かして地域の取り組みをコーディネートする中間支援組織が必要とされているものとする。

本委員会は、中間支援組織が産業振興に貢献していくことを基本として、地域の中で位置づけ直し、市民から必要とされる組織とするために、検討の段階から「多様で豊かな市民力」を活かすという『産業振興プラン』の主旨を尊重し、商工業者、公募市民、農業者、市民団体など多様な関係者の委員構成で設置された。

これまでに、平成26年1月から委員会を10回、作業部会を6回開催し、中間支援組織の目的、役割、組織構成などについて、様々な角度から議論した。その検討結果をふまえて、人をはじめとした様々な資源や地域の取り組みをつなげていく役割を中心とすることを基本とし、以下のようにまとめ提言とするものである。

この提言が市の産業振興施策推進の原動力となり、実現に向けた取り組みが進められることを期待する。

# I 設立検討の背景

## (1) 産業振興プランでの位置づけ

市は産業振興を推進するための計画として、平成14年3月に初めて『産業振興プラン』（以下、「旧プラン」という。）を策定した。そこでは、行政・商工会等の関係機関に限らず、多様な人材が参画・協働してその実現を図るという、いわゆる中間支援組織の原点となる発想が示されたが、多様な人材の参画・協働はプラン推進のための手法の一つといった位置づけでしかなく、積極的な意味づけはなされていなかった。

続いて、平成20年3月に策定された『産業振興プラン改定版』（以下、「改定プラン」という。）においても、旧プランの理念を実現することに軸足が置かれた。ただし、この改定プランでは、『産業振興プラン』の推進事業が実現できていないことを大きな課題として、推進事業を中心となって推し進める組織の必要性が示され、平成21年10月には、その具体化として小金井市産業振興プラン推進室「黄金井の里」（以下、「黄金井の里」という。）が設置された。

また、平成23年3月に策定された『産業振興プラン』（以下、「現行プラン」という。）では、産業振興の将来像を「多様で豊かな市民力による“黄金井ビジネス”の創造をめざす」として、「行政や団体、事業者・事業者といった限られた人材だけでなく、消費者・事業者、事業者、大学・研究機関、学生、市民団体など、幅広いやる気のある人材が参画できる仕組みづくりが大切」とされ、協働することによって産業振興を推進することが示されている。

協働による産業振興を進めるにあたって、市内の事業者や団体、学生、市民などで構成される事業運営組織の円滑な運営には、「コーディネーターの配置、中間支援組織との連携・支援、市、小金井市商工会、小金井市観光協会のバックアップなどが必要」とされ、その役割を担う組織として、黄金井の里の役割は極めて重要で充実が求められている。

## (2) 現状・課題

以上のように、現行プランでは、推進体制として黄金井の里の役割の充実が求められている。現行プランでは、「事業者や団体、学生、市民等が事業ごとに事業運営組織をつくることが求められる」とされ、今後、事業運営組織を一つでも多く立ち上げていくためにも中間支援組織の様々な役割が必要とされている。

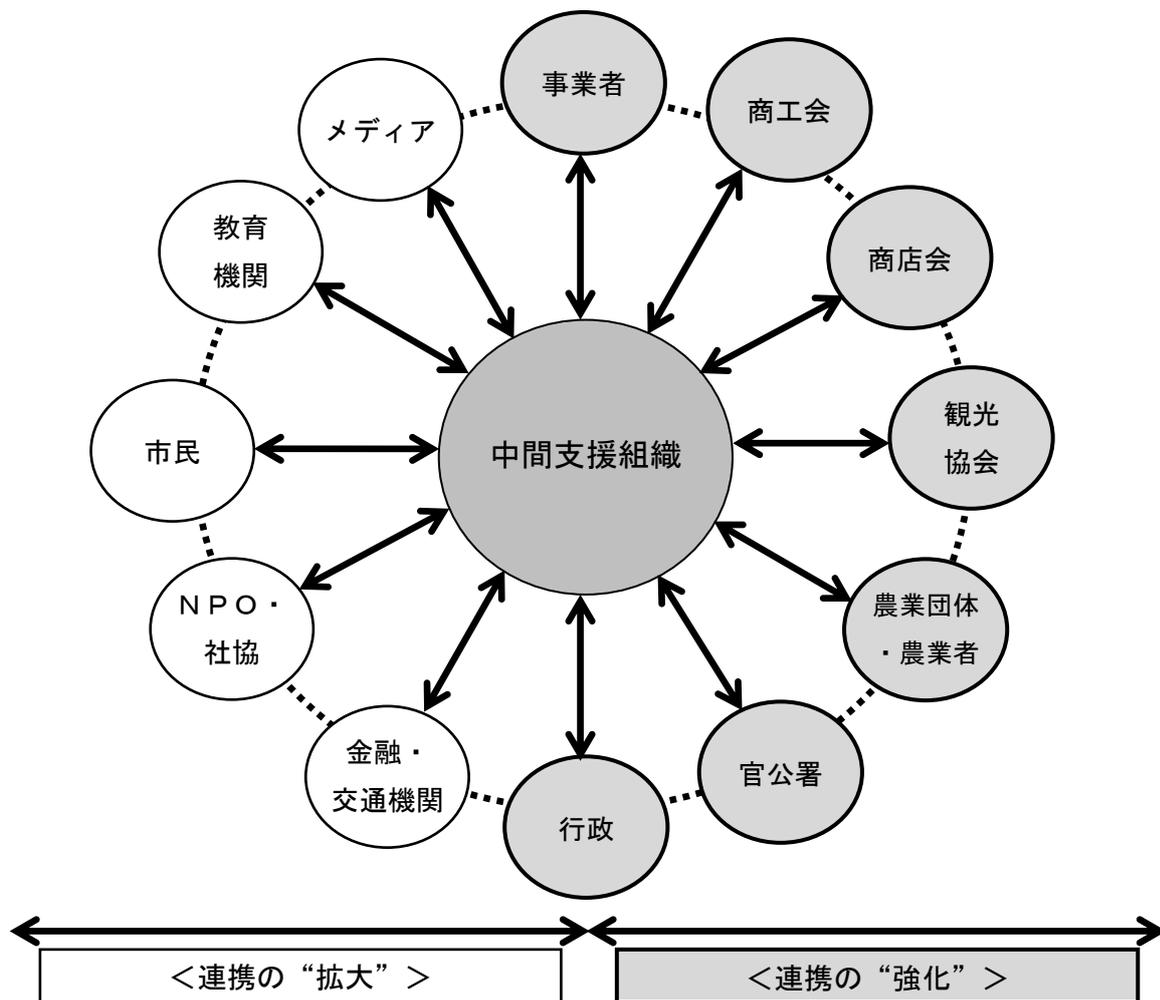
しかし、現状においては、現行プランに切り替わる段階で、推進体制の役割の充実に関する論議が不十分であったため、中間支援組織の役割を持った組織として黄金井の里を地域の中に位置づけ直すまでには至っていないとされている。また、緊急雇用創出事業臨時特例補助金といった事業推進に活用できる時限的財源があったことから、黄金井の里の役割が事業運営に比重が置かれてきたことも指摘されている。

## II 中間支援組織の基本的な方向性

### (1) 中間支援組織とは

小金井に愛着があり、まちを盛り上げていこうとする熱い気持ちを持つ市民の力を結集し、市民のニーズに合った取り組みを実現するため、次のような中間支援組織像が求められる。

- ・直接、間接的な関係者との間、または関係者どうしをつなげて“媒介役”となる組織。
- ・それぞれの関係者は、活動の主体・協力者にもなり、享受する側にもなる。それらをマッチングさせることを重要な役割とする組織。
- ・市、商工会、観光協会、農業団体など今まで連携を進めてきた団体との関係強化を図るとともに、今後は市民、NPO、社会福祉協議会、金融・交通機関、教育機関、メディアとの連携を拡大し、“オール小金井”で産業振興の動きをつくる組織。



### (2) 期待される効果

小金井が本来有する資源を最大限に活用することで、次のような効果が期待される。

- ・市はもとより、地域全体がこの組織に積極的に関わっていくなかで“つながりの好循環”をつくり、経済だけでは測れない社会的価値を生み出し、小金井らしい価値を創造すること。
- ・市民のニーズを拾い上げ、人、団体、モノ、情報、お金をつなげることにより、地域の課題に対応した新たなサービスの可能性、市内での起業や継承の拡大、効果的なイベントの創出など、小金井市内の至る所で地域経済の活性化の芽が生まれ、広がっていくこと。
- ・結果的に、小金井で仕事をしたい、暮らしたいという人が増えていくこと。

### (3) 目的・役割

これからの小金井に必要な中間支援組織という観点から、地域の中で位置づけ直していく際に本来求められる組織の目的・役割は次のとおりである。

- ・地域課題の解決に向けて、各種団体等との連携を図り、役割分担しながら、産業振興に資する人、団体、モノ、情報、お金をつなげ、小金井の地域経済の活性化を応援する。
- ・相談やマッチング、情報受発信とPRなどの機能を軸とし、こうした機能を十分に発揮することで『産業振興プラン』の推進に貢献する。『産業振興プラン』の推進事業については、市が実施主体となり運営は事業者や団体、市民で構成する各運営組織が担うことを基本とする。

### (4) 基本的な取り組み

中間支援組織に求められる市民の力を結集して事業を進めていく機能に軸を置きながら、次のように基本的な取り組みを担っていく。

#### 【考え方】

- ・これまで十分に役割を果たしていなかった、相談やマッチング、情報受発信とPRなどの中間支援組織に求められる取り組みの充実を図る。
- ・様々な分野（教育、文化、健康、福祉、子育て、スポーツ等）との連携により、新産業の育成を図るとともに、地域資源を活用した事業化の支援を行う。
- ・各取り組みを進めるにあたっては、最初からすべての業務を一律に担うことは効果が薄く現実的でないため、市民ニーズ等をふまえて以下の【内容】を関連させながら進めていく。
- ・自主事業については、将来的に取り組むことを目指し、実際に組織を立ち上げるなかで検討する。

#### 【内容】

- ・相談・マッチング（相談者のニーズに応じて人、団体、モノ、情報、お金をつなげる）
- ・情報受発信・PR（市内外の情報収集や情報提供、イベント等のPRの実施）
- ・創業・起業・継承応援（創業、起業、継承の各段階におけるサポート体制の構築）
- ・活動団体の運営支援（活動団体の立ち上げ、運営面におけるサポート）
- ・助成事業の支援（活動団体・個人への助成事業の斡旋、情報提供）
- ・『産業振興プラン』での推進事業の支援（上記の内容を通じた支援）

#### ～ 例えば、こんなことの実現を目指します ～

##### 《新しいサービスやものづくりへの貢献》

- ◆「高齢者のニーズを把握している福祉団体」と「技術を持つ市内のお菓子屋」がつながることで高齢者にやさしいお菓子が誕生する。

##### 《地域の新しい公共空間の活用促進》

- ◆「イベントがしたいけど人手不足の商店会」と「地域の町会や小中学校のPTAなど」がつながることで、みんなでイベントをつくり、顔と顔の見える関係ができる。

##### 《PRツールの充実と情報の一元化》

- ◆行政（市報・掲示板等）、交通機関（駅・電車内・バス等）、メディア（新聞・TV等）がつながることで一体的なイベントのPRの実現と情報の一元化が進む。

## (5) 推進体制

地域で様々な活動をしている市民や団体にサポートメンバー（以下「サポーター」という。）として活躍してもらうことにより、市民の様々なニーズを掘り起こし、情報の共有を図っていく仕組みをつくり、常に広がりをもって必要とされる組織づくりや人材育成を行う。

また、小金井に愛着があり、まちを盛り上げていこうとする熱い気持ちを持つ市民の力を結集し、特定の人材の活動や人間関係だけに左右されないチーム一丸となった厚みのある推進体制をつくることを目指す。

具体的な内容は準備会に委ねるが、組織や人材に求められる基本的なことは次のとおりである。

- ・意思決定を迅速に進めていくことにより、市民のニーズなどに柔軟に対応できる組織とする。
- ・能動的に活動でき、意思疎通が円滑になされる組織とする。
- ・可能な限り行政からの独立性が確保され、行政、事業者、市民の間で活動しやすい組織とする。
- ・小金井に愛着があり、様々な場面で活動している人、市内外の多種多様な人や団体とつながっている人などをはじめとした地域でのコーディネート能力を発揮する人材を募り、サポーターとして活躍してもらう。地域への広がりをサポーター、事務局など含めチームとして結集して動いていくことにより、結果を出していく。
- ・事務局は、コミュニケーション能力が高く、事務作業などができる人材を配し、サポーターと連携しながら業務を進める。

## (6) 財源

“小さく産んで大きく育てる”という考え方のもと、財源を有効に活用し、まずは組織の基盤づくりに力を注ぐことを目指す。

そのため、財源に求められることは次のとおりである。

- ・運営基盤が脆弱な間はできる限り市が人件費、家賃などを負担し、組織の基盤づくりを支援する。
- ・市民や事業者等からの出資又は会費などを財源の一部とできることについても検討する。
- ・その他、国等の補助金なども含めて検討しながら財源の確保に努める。

### Ⅲ 実施にあたっての展開

#### (1) 準備会による検討

本提言後、速やかに具体的な組織の検討を進め、市民のニーズに合った中間支援組織の設立を目指すことが求められることから、次のように準備会を立ち上げる。

- ・今後、具体的な検討を進めていくため、市の主催による準備組織を設置する。

例：(仮称) 中間支援組織設立準備会

- ・準備会の構成メンバーは、検討委員会の委員が母体となることを考慮して、組織横断的に市内の様々な人材に呼び掛ける。
- ・準備会は、随時、市内の関係団体と調整を行いながら進めていく。

#### (2) 次期産業振興プランへの反映

中間支援組織設立の具体化・実現化を図っていくためには、平成27年度策定予定の『産業振興プラン』に、本提言に基づく中間支援組織の役割を位置づける。

#### (3) 検討スケジュール

本提言後、できるだけ早い時期から共有化を図り、スピード感をもって取り組んでいくことが求められることから、今後の主な検討スケジュールは次のとおりである。

- ・平成26年9月末 市長への提言
- ・平成26年10月 準備会の立ち上げ着手

これ以降運営開始までのスケジュールについては、準備会で検討する。

